

## ～能登半島地震支援活動の「気づき」をふまえて～

南海トラフ地震対策の強化に向けた取組方針  
【発災当初から復旧フェーズ版】

～能登半島地震支援活動の「気づき」をふまえて～



三重県

令和6年10月

### 【取組方針の概要】

- 令和6年能登半島地震の被災地へ派遣された職員（県・市町等）が得た「気づき」を南海トラフ地震対策にいかすため、課題ごとに対策の強化に向けた取組の方向性をまとめた『南海トラフ地震対策の強化に向けた取組方針【発災当初から復旧フェーズ版】～能登半島地震支援活動の「気づき」をふまえて～』を作成しました。
- 本取組方針では36チームの活動内容が記載されており、保健医療活動チーム12チームの気づき・課題に対して取り組みの方向性をとりまとめています。

# 令和6年能登半島地震への支援状況（R6.9.30時点）

## ① DMAT（災害派遣医療チーム）

### （1）主な活動内容

- ・ 患者搬送中の診療（域内搬送）
- ・ 災害拠点病院等での患者の治療支援（病院支援）
- ・ 消防関係機関等と連携した情報収集伝達、救急医療（現場活動）

### （2）活動期間

令和6年（2024年）1月2日～2月17日

### （3）延べ派遣人数

955人



▲輪島市保健医療福祉調整本部における活動の様子

## ② 三重県看護協会災害支援ナースチーム

### （1）主な活動内容

- ・ 1.5次避難所で被災者（特に高齢者）が健康レベルを維持できるように適切な看護を提供し、必要に応じ受診につなげたり、救急搬送の手配を実施

### （2）活動期間

令和6年（2024年）1月17日～2月26日

### （3）延べ派遣人数

154人



▲1.5次避難所での支援の様子

## ③ 日本赤十字社三重県支部チーム

### （1）主な活動内容

- ・ 避難所をまわり、アセスメントをしてニーズを把握し報告。物資支援。巡回診療。（日赤医療救護班）
- ・ 全国に91ある赤十字病院から派遣されたチームの動きの調整。避難所情報の収集と避難所支援の指示。把握されていない避難所の情報を収集し整理。（日赤災害医療コーディネーターチーム）
- ・ 被災者と支援者の両方の心のケア（こころのケア班）
- ・ 日赤石川県支部の業務支援（日赤支部支援要員）

### （2）活動期間

令和6年（2024年）1月4日～4月3日

### （3）延べ派遣人数

82人



▲避難所で巡回診療をする様子



▲DMAT活動拠点本部にて活動する様子

# 令和6年能登半島地震への支援状況（R6.9.30時点）

## ④ J M A T 三重（日本医師会災害医療チーム）

### (1) 主な活動内容

- ・ 避難所・救護所等での医療や健康管理
- ・ 避難所等の公衆衛生対策

### (2) 活動期間

令和6年（2024年）2月10日～3月11日

### (3) 延べ派遣人数

87人



▲石川県庁内 JMAT 調整本部での活動の様子

## ⑥ D H E A T（災害時健康危機管理支援チーム）

### (1) 主な活動内容

- ・ 輪島市保健医療福祉調整本部の業務調整と体制構築
- ・ 輪島市街地で活動する保健師チームの総合調整
- ・ 避難所や在宅避難者等の情報収集と保健衛生対策

### (2) 活動期間

令和6年（2024年）1月31日～2月9日

### (3) 延べ派遣人数

60人



▲能登北部保健福祉センターでの活動の様子

## ⑤ D P A T（災害派遣精神医療チーム）

### (1) 主な活動内容

- ・ 被災地での精神科医療の提供
- ・ 被災地での精神保健活動への専門的支援
- ・ 被災した医療機関への専門的支援（患者避難への支援を含む）
- ・ 医療従事者、救急隊員、自治体職員等への専門的支援

### (2) 活動期間

令和6年（2024年）1月5日～2月8日

### (3) 延べ派遣人数

160人



▲避難所での活動の様子

## ⑦ 保健師チーム

### (1) 主な活動内容

- ・ 在宅要支援者の健康管理（家庭訪問による在宅要支援者の把握、相談対応）
- ・ 避難所避難者の健康管理（避難者の健康相談対応、ラピッドアセスメントの実施）

### (2) 活動期間

令和6年（2024年）1月6日～3月31日

### (3) 延べ派遣人数

470人



▲避難所での感染症対応の様子

# 令和6年能登半島地震への支援状況（R6.9.30時点）

## ⑧ 三重県薬剤師会派遣チーム

### (1) 主な活動内容

- ・ 輪島市におけるモバイルファーマシー（※）での調剤活動

### (2) 活動期間

令和6年（2024年）1月9日～1月14日

令和6年（2024年）2月6日～2月13日

### (3) 延べ派遣人数

54人

- ※ モバイルファーマシー：医薬品保管庫、冷蔵庫、調剤棚、分包機など調剤を行うための設備を有する特殊車両



▲モバイルファーマシーでの活動の様子

## ⑨ 獣医師派遣チーム

### (1) 主な活動内容

- ・ 応急仮設住宅入居者説明会におけるペット関係事項の説明、資料作成
- ・ 避難所等におけるペット飼養状況の調査
- ・ 保護収容動物の飼養管理及び移送

### (2) 活動期間

令和6年（2024年）2月22日～4月16日

### (3) 延べ派遣人数

20人



▲獣医師の活動の様子

## ⑩ J D A T 三重（日本災害歯科支援チーム）

### (1) 主な活動内容

- ・ 石川県歯科医師会災害対策本部で支援物品を確認補充
- ・ 被災市町の保健医療福祉調整本部等での支援ニーズの把握や活動場所の確認
- ・ 避難所や老人ホーム等での口腔ケア、唾液腺マッサージ、口腔ケア相談、義歯清掃、義歯研磨及び歯科口腔保健ラピッドアセスメントの実施
- ・ 衛生用品（歯ブラシ、子ども用歯磨剤、うがい薬、口腔ケアシート、義歯ブラシ、義歯BOX、入れ歯洗浄剤）の補充やブースの設置、口腔啓発ポスターの掲示

### (2) 活動期間

令和6年（2024年）2月9日～2月17日

令和6年（2024年）3月3日～3月9日

### (3) 延べ派遣人数

84人



▲避難所での活動の様子



▲衛生用品の補充やブースの設置

# 令和6年能登半島地震への支援状況（R6.9.30時点）

## ⑪ JDA-DAT三重（日本栄養士会災害支援チーム）

### （1）主な活動内容

- ・ アレルギー対応食、乳児用ミルク、離乳食のほか、嚥下困難な方向けのおかゆなど軟らかい食事を提供する「特殊栄養食品ステーション」の設置と、避難所への運搬
- ・ 1.5次避難所における栄養・食生活支援活動
- ・ 輪島市内各避難所における食事調査と食環境整備



▲避難所への特殊栄養食品搬入の様子

### （2）活動期間

令和6年（2024年）1月5日～3月31日

### （3）延べ派遣人数

32人

## ⑫ 三重J R A T（災害派遣リハビリテーション医療チーム）

### （1）主な活動内容

- ・ 石川県保健医療福祉調整本部での支援ニーズ把握と多職種連携調整
- ・ 1次避難所における生活不活発病予防と環境調整（輪島市・珠洲市・志賀町）
- ・ 1.5次避難所における生活不活発病予防と環境調整

### （2）活動期間

令和6年（2024年）1月5日～3月21日

### （3）延べ派遣人数

125人



▲生活不活発病予防の運動指導の様子

# 「気づき・課題」に対する取り組み（抜粋）

## ① インターネット環境の整備

### 【気づき・課題】

様々な関係機関と連携して災害対応業務を実施する際に、映像や文書等の情報共有のほか、テレビ会議にも利用できるインターネット回線は、業務の効率化、円滑化に非常に役立った。

### 【取組の方向性】

通信インフラが被害を受けた災害現場において、安定したインターネット環境を確保するため、**衛星通信設備（スターリンク、発電機等の電源）の整備を進める。**

### 【具体的な取組】

（令和6年度）

- 三重県庁、伊勢庁舎、尾鷲庁舎、熊野庁舎にスターリンクを配備した。（防災対策部）
- SCU（三重県立看護大学、伊勢志摩広域防災拠点及び県営サンアリーナ）にスターリンクを配備した。

（令和7年度）

- 桑名庁舎、四日市庁舎、鈴鹿庁舎、津庁舎、伊賀庁舎、松阪庁舎、志摩庁舎にスターリンクを配備する見込み。（防災対策部）
- SCU（伊坂ダム、三重大学グラウンド）、県型保健所8か所、北勢福祉事務所において衛星携帯電話の配備・更新を行う。

# 「気づき・課題」に対する取り組み（抜粋）

## ② 患者・要配慮者の搬送

### 【気づき・課題】

輪島市・珠洲市から、まずヘリコプターや陸路で被災地外の災害拠点病院（石川県立中央病院）に患者、要配慮者を移送し、そこで1.5次避難所、2次避難所等の移送先を円滑に決定した。

津波浸水想定区域外に立地するなど、南海トラフ地震の被害が少ないと想定される災害拠点病院の敷地内にヘリポートを整備しておく必要がある。

### 【取組の方向性】

円滑に患者搬送を行うため、敷地内にヘリポートが整備されていない災害拠点病院に対して、ヘリポートの整備が促進されるような方策を検討するとともに、場外離着陸場を活用する場合でも、円滑に患者を搬送できるよう訓練を実施する。

また、患者、要配慮者の移送先の決定を石川県立中央病院において集約して行ったことも参考に、**三重県としての患者、要配慮者の搬送の考え方を検討する。**

### 【具体的な取組】

- ヘリポート整備に係る補助金交付制度について、引き続き災害拠点病院への周知を実施する。
- 令和6年度中部ブロックDMA T実動訓練で場外離着陸場を活用した搬送訓練を実施した。（資料3）
- 上記訓練において既存の搬送体制を検証するとともに、三重県として災害時における医療搬送体制の検討を実施する。（資料4）

# 「気づき・課題」に対する取り組み（抜粋）

## ③ 避難者に対する保健活動の体制づくり

### 【気づき・課題】

被災地において、避難所訪問を行っていた各チーム（DMAT、DPAT、保健師チーム、災害支援ナース等）の連携が取れておらず、情報共有もできていなかったため、避難所での活動内容が重複し、同じ避難者に複数のチームが健康状態等を確認するための質問を繰り返すことになり、避難者を疲弊させてしまうことがあった。

各チームが情報を共有し連携しながら活動できる体制づくりが必要である。

また、避難生活の長期化により、運動機能や認知機能の低下、高血圧等の症状が生じる高齢者が増加していることから、保健師チームは、引き続き健康状態の把握や適切な対応が行えるよう、取り組む必要がある。

### 【取組の方向性】

**各チームが保健医療活動に係る活動方針や避難者の健康状態を情報共有しながら、連携して活動できる体制を検討する。**あわせて、各チームが連携した活動を実施することができるよう訓練を通して実効性を高めていく。

避難者の健康状態の変化を見逃さず、適切な対応が行えるよう、マニュアル等の改定や人材育成を行う。

### 【具体的な取組】

- 災害時の保健医療活動に係る受援体制の充実を図るため、訓練等の機会を通して、連携を確認するとともに体制について検討していく。
- 災害時の保健師活動マニュアル等の改定や人材育成研修に取り組む。